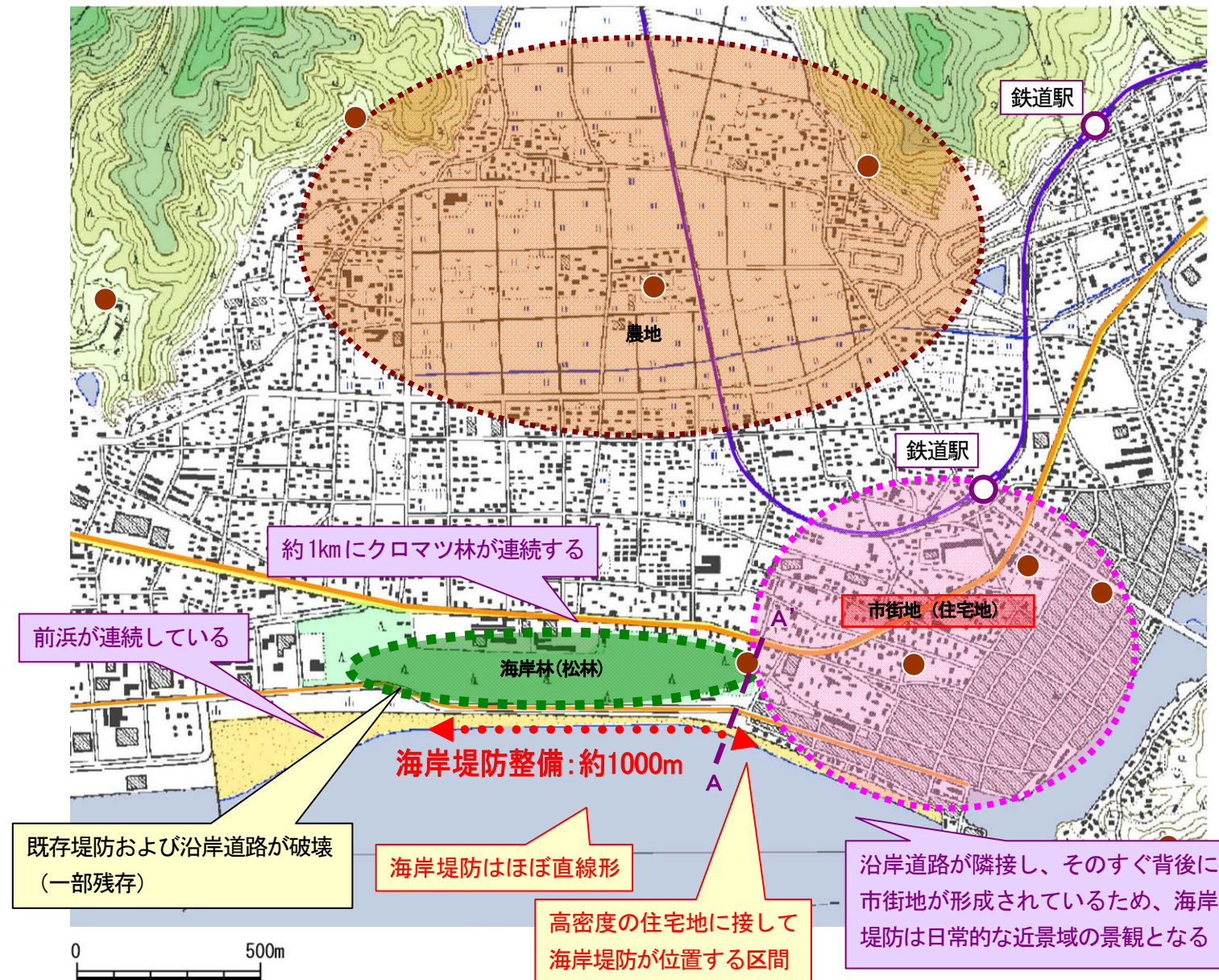


地区特性



海岸堤防の景観検討範囲

背後の市街地およそ街区1ブロック程度の範囲(海岸から約0.2km)

凡例

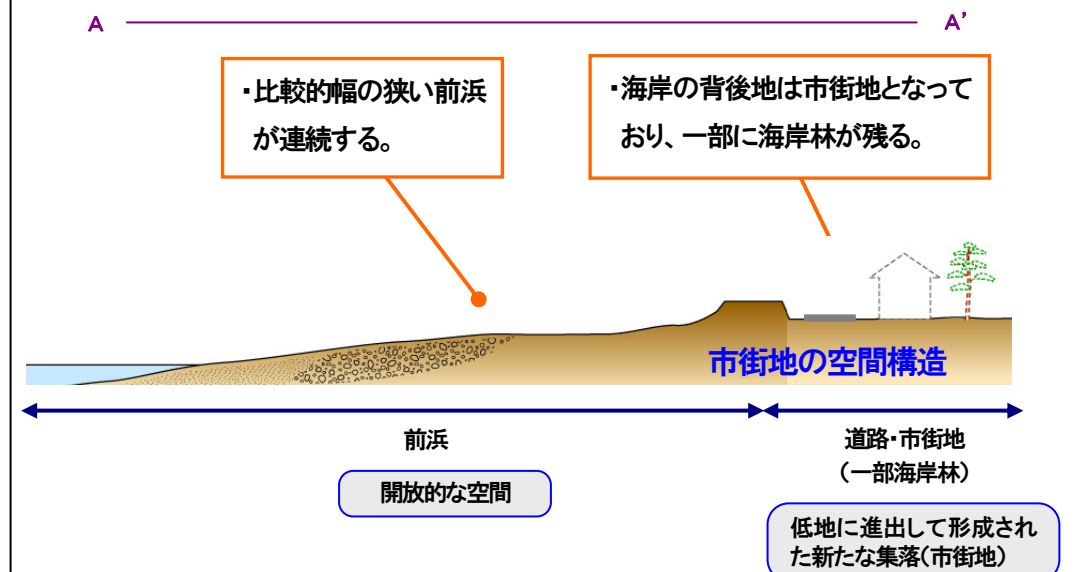
- 役所
- 神社・仏閣
- 鉄道駅舎
- 主要道路
- 地形による景観特性
- 被災による景観変化
- 施設の景観特性

景観特性

- ・沿岸道路が隣接し、その背後に市街地が近接しており、海岸堤防は近景の景観となる。海岸沿いの一部の区間に松林が連続している。山際には広く農地が分布している。
- ・やや離れた街区では、高層階の建物から海面が望めると想定される。
- ・従来より、海岸堤防により海岸道路から砂浜は望めない。
- ・前浜(2km程度)が、ほぼ直線的に連続する。

地形基盤と地域の成り立ち

地形断面図(A-A')

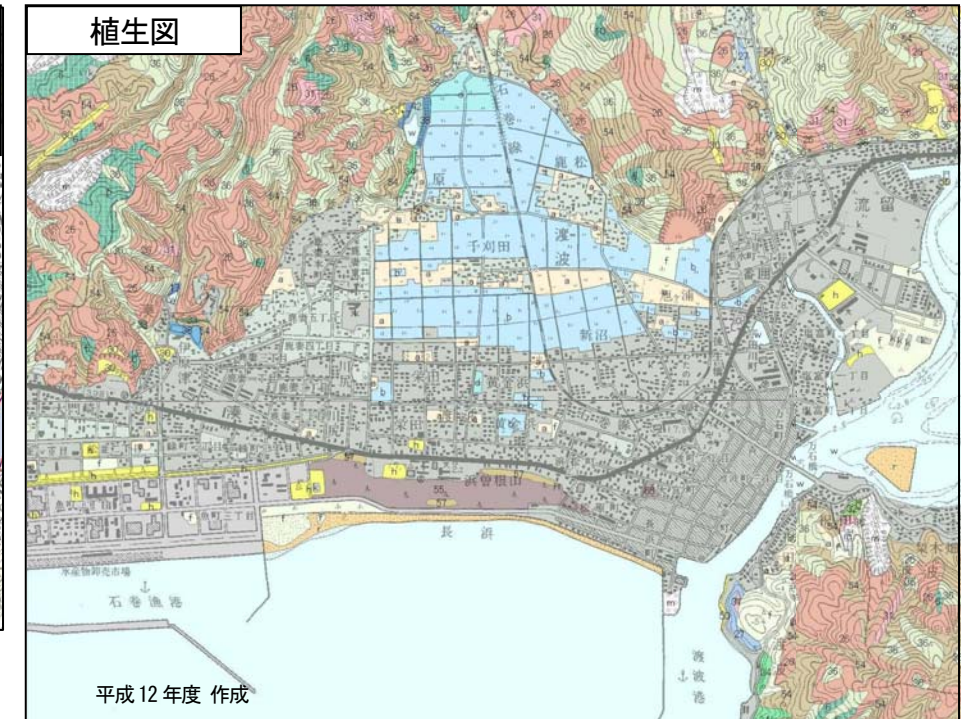
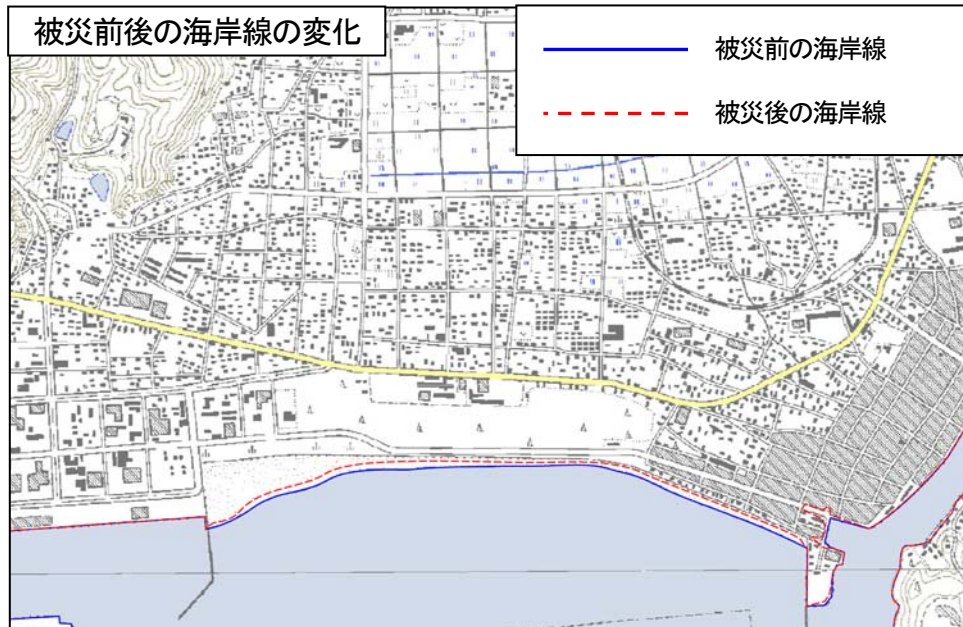
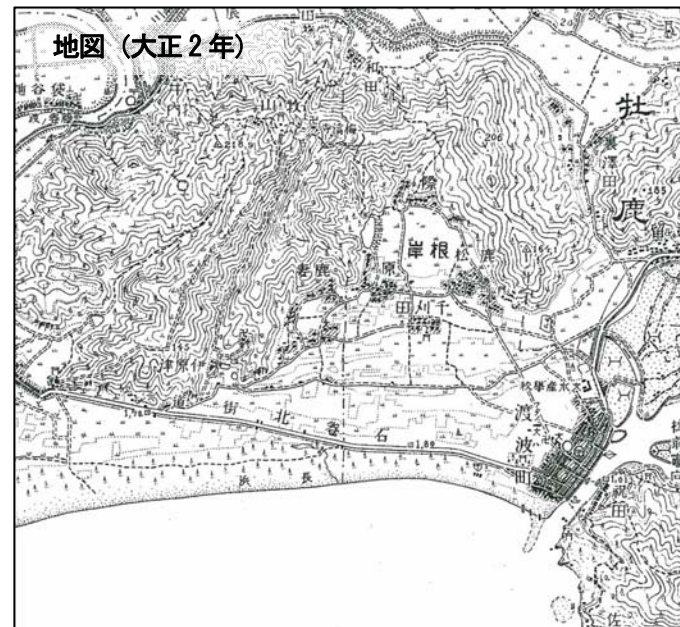


被災前の堤防の状況

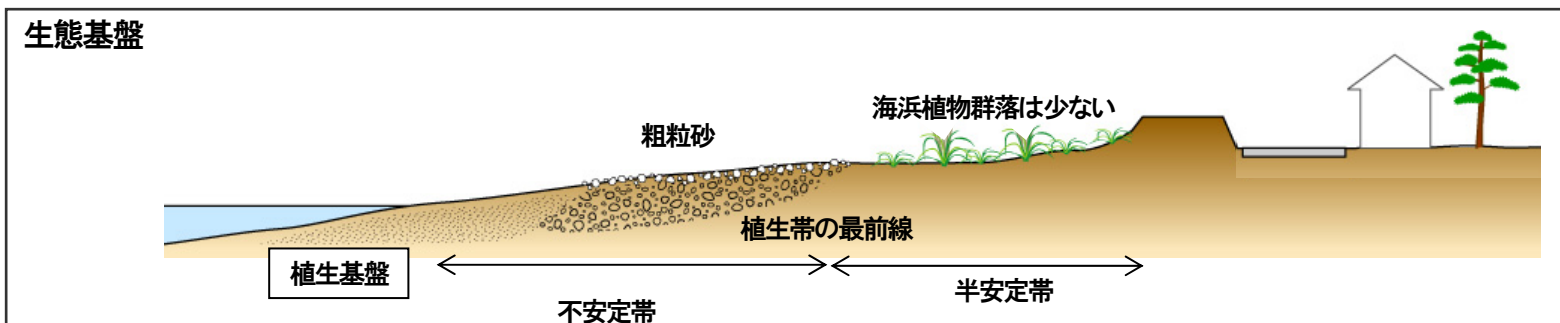
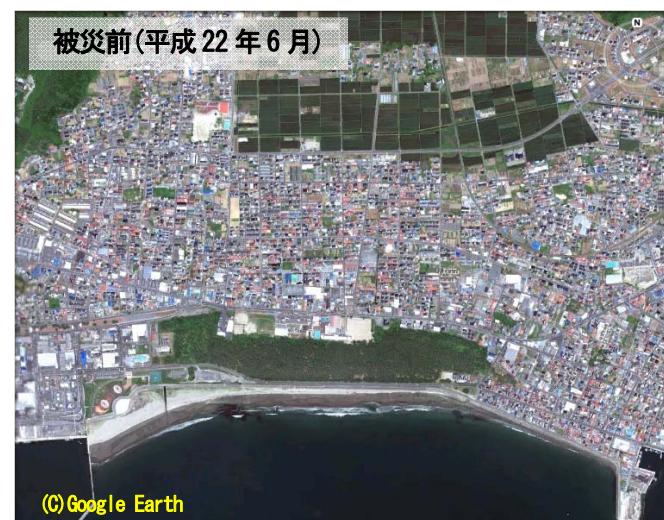


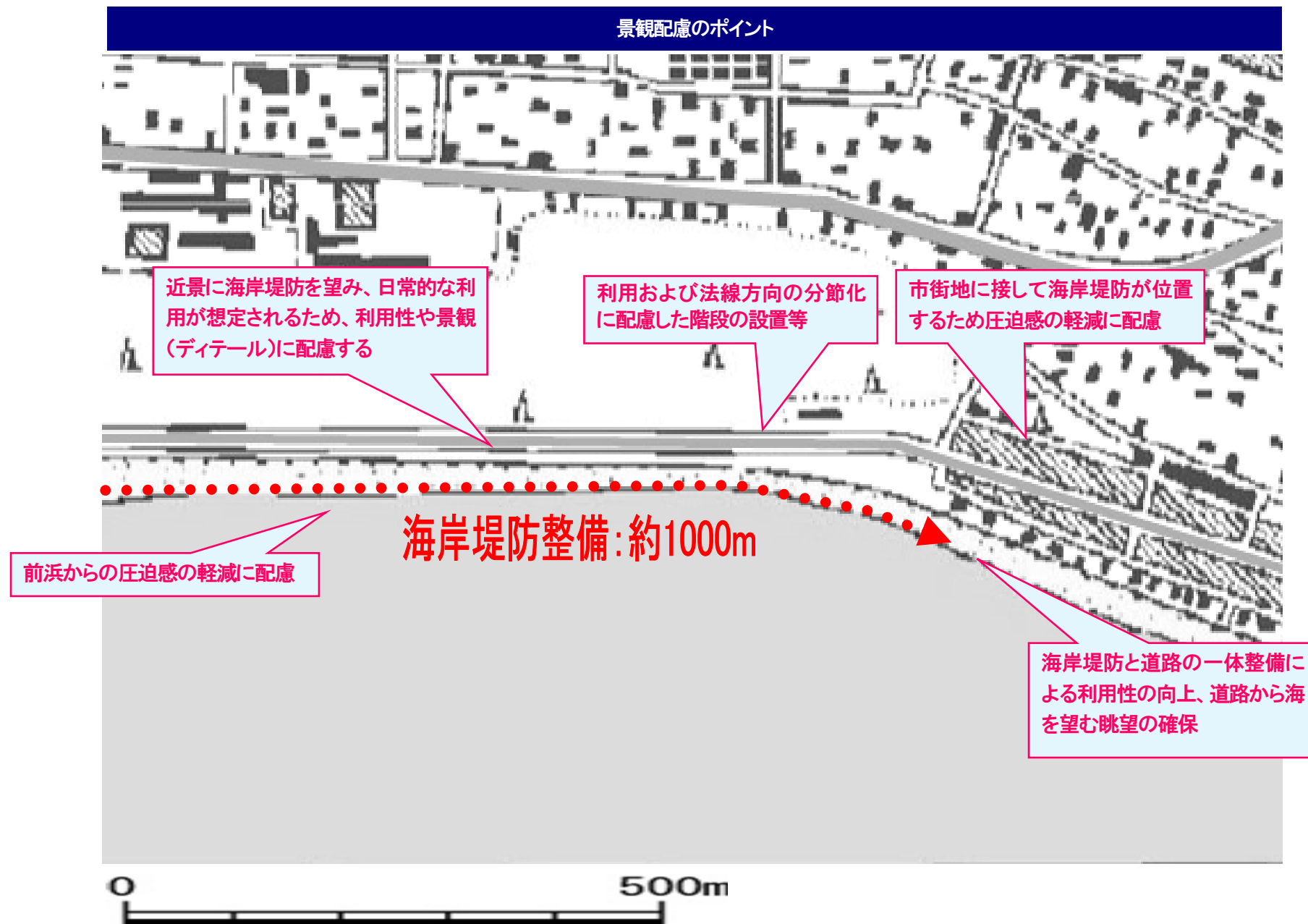
地形・生態特性

- ・現在の市街地は、かつては海岸林（松林）であり、背後地の街道の周囲は農地が分布していた。
- ・かつての海岸林（松林）は土地開発により消失された。



植生図 凡例 (抜粋)
 凡例色 植生図凡例番号 統一凡例番号 統一凡例名
 55.540300.クロマツ植林
 57.540902.ニセアカシア群落

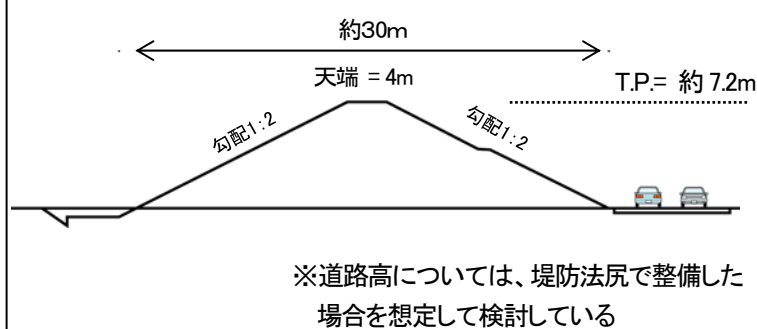




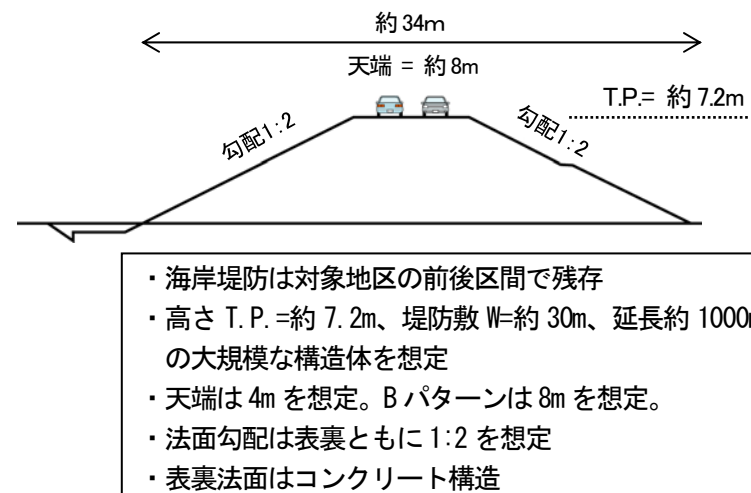
検討条件（施設構造）

海岸堤防【想定される標準断面】

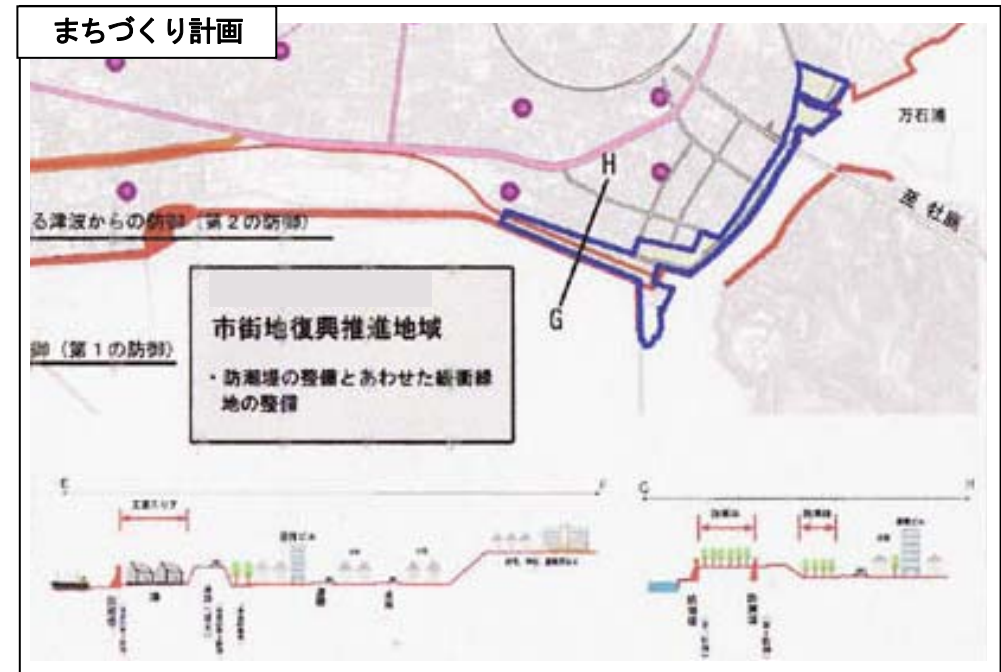
◆A パターン：原位置復旧



◆B パターン：堤防と道路の一体整備



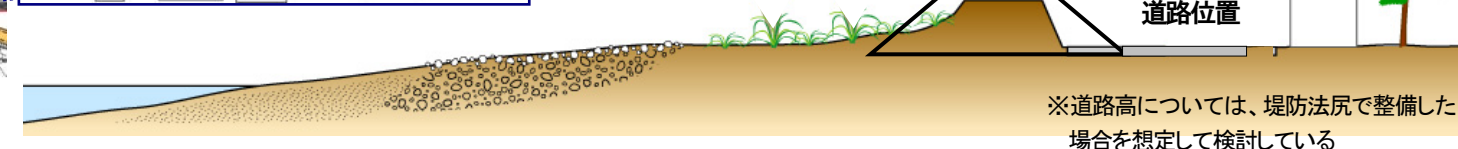
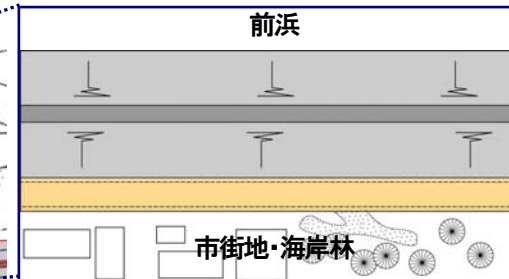
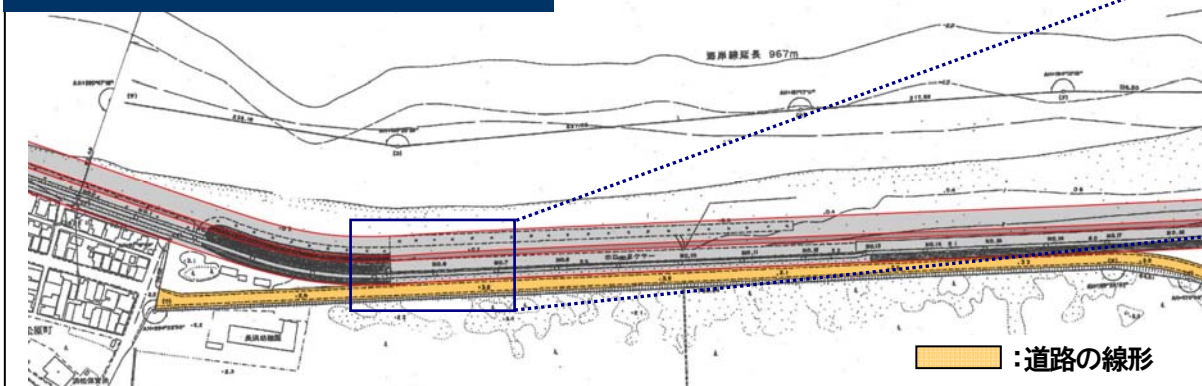
まちづくり計画



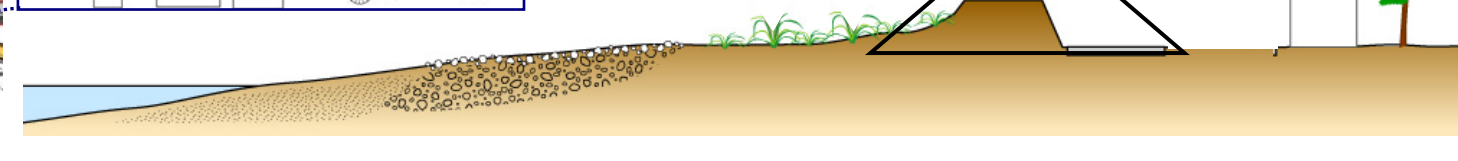
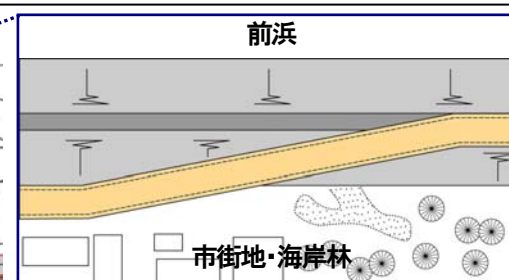
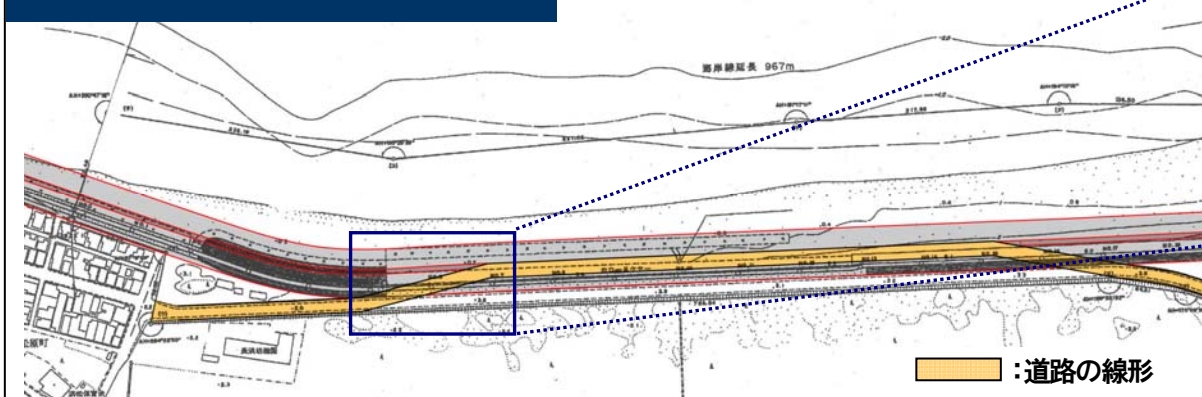
出典：都市基盤復興基本計画図（案）

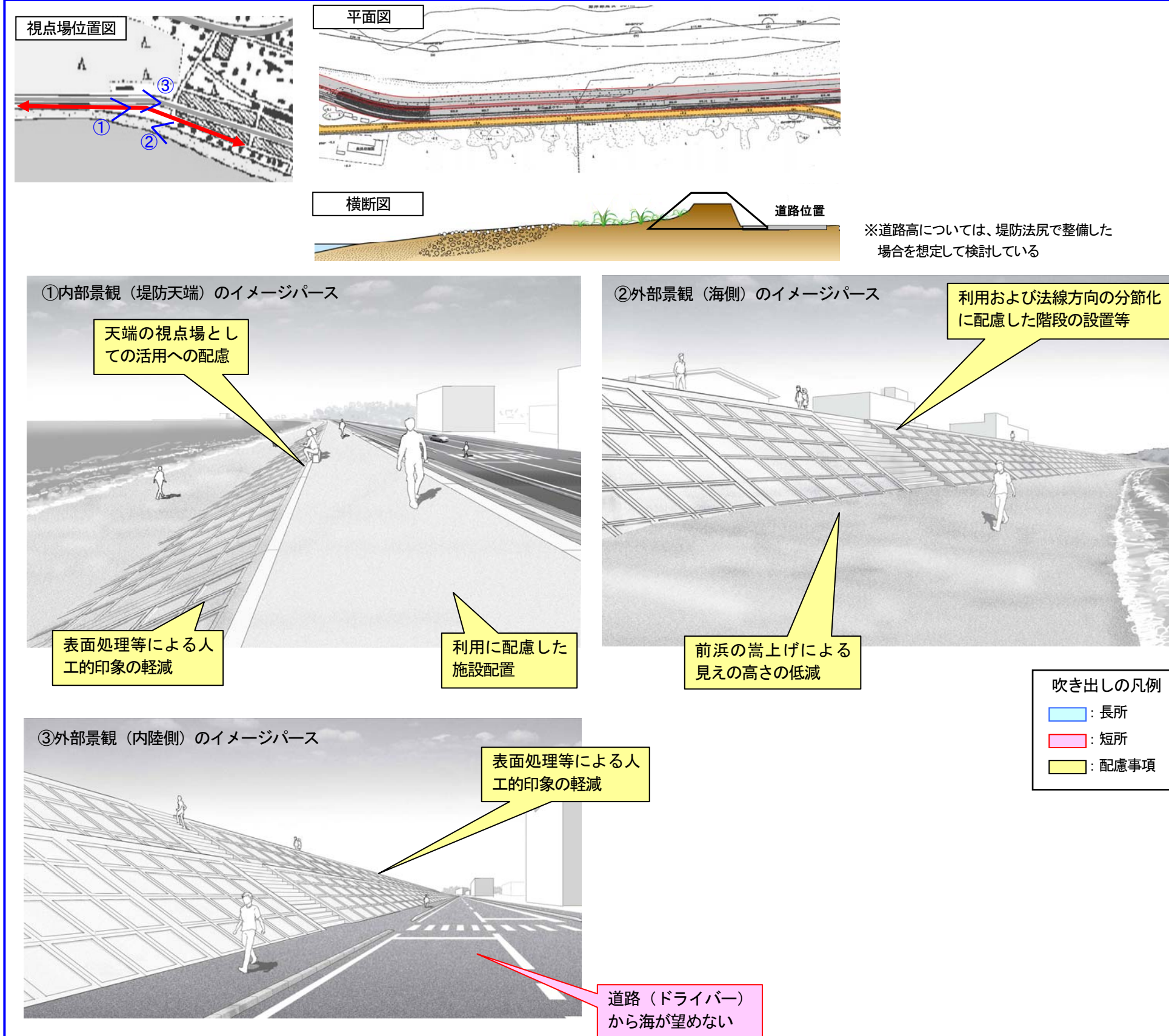
検討対象パターン

◆A パターン：原位置復旧

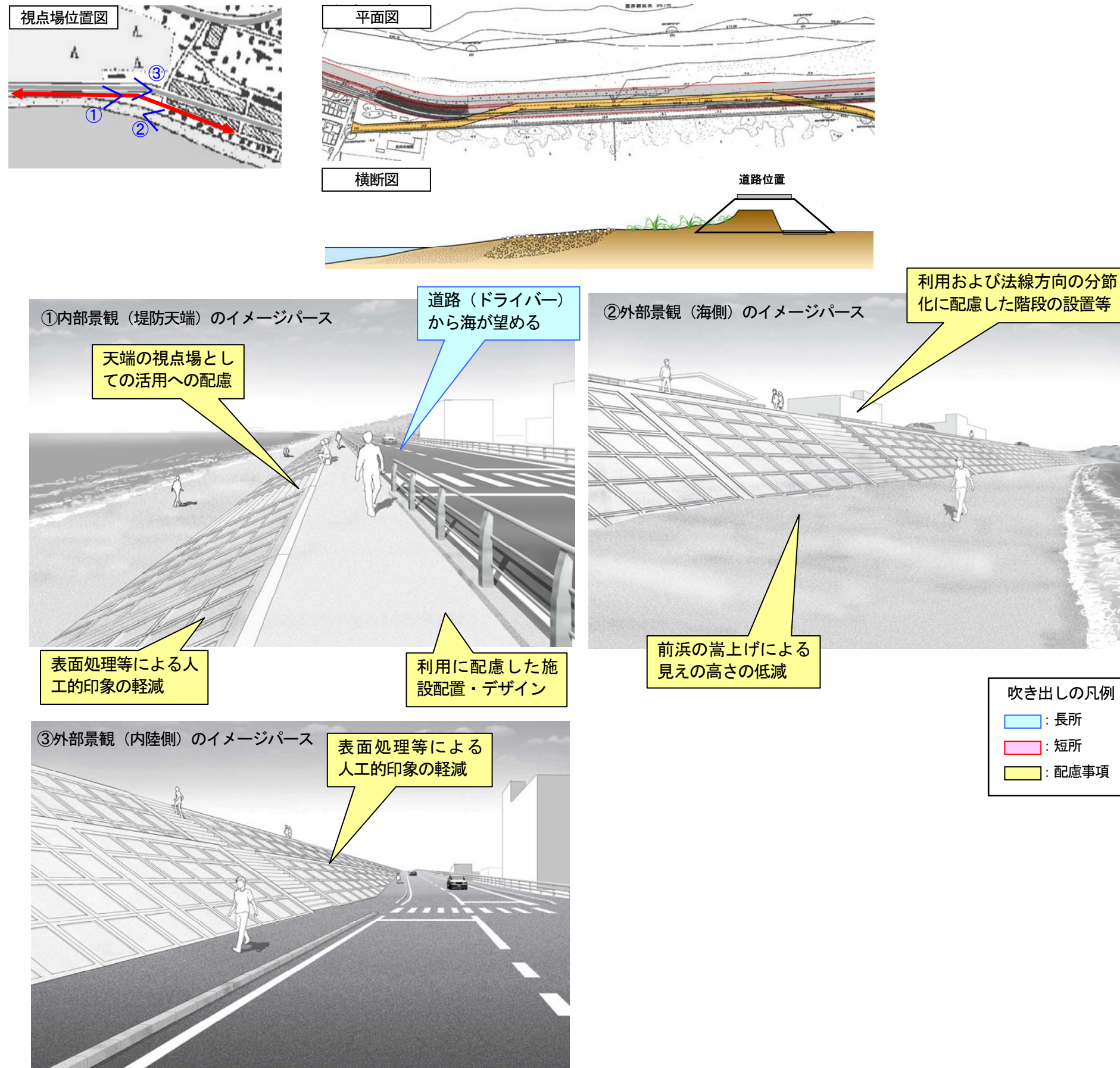


◆B パターン：堤防と道路の一体整備





	特徴・評価
視覚的景観	・道路(ドライバー)から海が望めない。 ・市街地に接して海岸堤防が位置するため圧迫感の軽減に配慮する必要がある ・長く直線的な構造物となるため、分節化等の配慮が必要となる
地域性	・市街地に隣接し、利用者が多いため、利便性や地域になじんだ景観形成に配慮する必要がある。
生態系	・被災前に比べ海岸堤防の高さ、敷幅が増加し、前浜の面積が減少することから、生態系(海岸ならではの植生等)への配慮が求められる。
サステナビリティ	・前浜の空間が少なく、気候変動による海水面上昇等への対応の余地が少ない。 ・前浜が短いため、波浪等による施設への外力が大きい。 ・堤防裏法尻の背後に道路があることで、越流した津波の洗掘防止対策としての効果が期待できる。
コスト	



	特徴・評価
視覚的景観	- 道路(ドライバー)から海が望める。 - 市街地に接して海岸堤防が位置するため圧迫感の軽減に配慮する必要がある - 長く直線的な構造物となるため、分節化等の配慮が必要となる
地域性	市街地に隣接し、利用者が多いため、利便性や地域になじんだ景観形成に配慮する必要がある。
生態系	被災前に比べ海岸堤防の高さ、敷幅が増加し、前浜の面積が減少することから、生態系(海岸ならではの植生等)への配慮が求められる。
サステナビリティ	- 前浜の空間が少なく、気候変動による海面上昇等への対応の余地が少ない。 - 前浜が短いため、波浪等による施設への外力が大きい。 - 海岸堤防の拡幅により、越波等への強度が増すことが期待できる。
コスト	海岸堤防の拡幅により、コストが増加するとともに、道路管理者との調整が必要となる。